

鑑賞の楽しさを求めて

—複式中学年：絵の中の世界 「幻想喜歌劇『船乗り』からたたかひの場面」：パウル＝クレーより—

阿比留 時彦

1 絵を見る楽しさを

(1) 研究課題

一枚の絵を見るとき、この絵は、いいなあとか、この絵はあまり好きじゃないなと感じる。絵をみることを通じて、自分の好みを自分で感じ取ることは、大切な学習であると捉えている。そこからさらに、どうしてそう思うんだろう、よく見てみようとするを少しずつ積み重ねていく。作者の意図、作者の趣向、例えば、一人の画家の年代を追うことで、好き、嫌いだけでない作品への願いや情熱の高まり、当時の文化なども見えてきて、一枚の絵から、時に、作者の意図からも離れ、多様な見方へと広がっていくかもしれない。

本稿では、子供達が、絵そのものや絵を構成するさまざまな要素に迫り、楽しみとする学習、絵を見る楽しさを膨らませる支援のあり方について考察してみたい。

(2) 複式における図画工作科のよさ

複式学級の特徴は、異学年からなる小人数の学級である。図画工作科においても、指導要領で、子供の発達の大きなくくりである低、中、高学年の複数学年に目標を示し、学年間を見通した弾力的な指導計画を作成し、指導の効果を高められるようにしてある。複式で、2学年が一枚の絵を共に見て学習することは、同学年としてのみでなく、他学年どうしの、あるいは、個としての見方や感じ方、表現のあり様に暖かな視点を投げかけることであるように思う。知識量の多少にかかわらず、お互いの思いを尊重する姿勢が基本になっている。また、小人数であるため、お互いの関わりを意識し、深めることができる。自分の思いの表出や表現が直接的に反映されやすく、自分と仲間とのつながりを強く意識することができるのである。

指導者にとっては、小人数であることで、こまやかで思い切った活動を仕組むことも可能となる。環境面でも、単式（40人学級）ではどうかなと思えるような学習も行えるよさがある。

日常的に使用している鑑賞用の複製画も、学級の仲間と近くからじっくり見つめ合うことができるのも、複式ならではのよさなのである。

2 題材の概要と研究の視点

(1) 題材の概要

① 題材について

画家パウル＝クレーの描く絵には、心の奥底のもう一人の自分を見つめるような魅力的な世界がある。子どもたちがこの画家の絵を鑑賞して、どのような気持ちを抱くのか興味ある所である。この「幻想喜歌劇『船乗り』からたたかひの場面」にも、物語性や明快な形や線、色の変化など、子どもたちにとって、親近感と楽しい想像性の広がる豊かな要素がある。この絵を通して、絵を見る楽しさをさらに広げてほしいと願っている。

本学級の子どもたちは、鑑賞活動に進んでかかわってきた。中には、美術館へ足を運ぶなど、高い興味・関心を抱く子もいる。1枚の絵を通じて、何かを感じる心情を大切に育むこと。そのために、心情をくみ取るような投げかけや関わり、発言を求めるなど、自分と向き合い、自らの見方・感じ方を豊かにする働きかけができればと考えている。

② 学習のねらい

- 1 自分らしい見方・感じ方を楽しむ。
- 2 友達との意見交流から、自分の見方・感じ方を広げ、深める。
- 3 作者になって造形活動し、鑑賞をさらに深める。

③ 指導内容と時間数・・・5時間

- 第1次 一枚の絵をもとに、意見交流をする。……………1時間 (本時)
- 第2次 画家になったつもりで、怪物(?)を描く。……………2.5時間
自分の絵にあった台紙を選び、色・形を考え、
張り付けるとともに、友達の絵を鑑賞する。……………1.5時間

(2) 研究の視点

① 鑑賞の面白さを感じ取る

中学年のこの時期には、子供らしい自己表出を思い切り展開できる反面、個人によっては、友達との客観的な比較から、表現することに自信をもちにくい子供も顕在化してくる。そういった意味では、取り上げる一枚の絵をきっかけとして、表現の面白さや絵の中で遊ぶ楽しさをもつことができるなら、その絵はかけがえのないものになり得る可能性がある。表現と違った鑑賞の独自性に気づき、個々人に絵を見る楽しさのきっかけをもたらす絵そのものの選択や指導について考えてみた。

また、絵を見る活動は、表現の多様性を心に蓄え、やがて自分の好みの表現を自分なりの表現に結び付けようとするとも考えられる。さまざまな表現を取り上げることで、心の受信機にゆさぶりをかけながら、自分の表現そのものも温めることができると捉えている。

② 鑑賞のための表現を考える

指導書図画工作編には、3年生の鑑賞指導として、友達の作品に関心をもつことと、身近な造形品を取り上げ、鑑賞の効果が表現活動にも生かされるようにするねらいが示されている。また、4年生では、友達作品に加え、美術作品や造形品そのもののよさにも着目できるようにとの願いが込められている。表現と鑑賞とは一体的な関係にあるが、この段階では、表現にウエイトをおきつつ、表現のための鑑賞から、鑑賞そのもののよさに引き継ごうとする大切な時期であると考えられる。

本題材では、活動的な3・4年生を対象にすることも踏まえ、表現に生かすための鑑賞から、鑑賞のための表現という視点での鑑賞指導を意識してみた。つまり、友達と鑑賞したことを、表現という手段を通じて、さらに鑑賞を深めようと試みた。

本時仮説

仮 説	子どもの想像性を引き出すような絵を提示し、自分なりの感想を持つ場、友達と意見交流する場を設けるならば、絵の世界の見方や感じ方を広げ、鑑賞を楽しむことができるであろう。
--------	---

3 題材「絵の中の世界」-「幻想喜歌劇『船乗り』からたたかひの場面」：パウル＝クレーよりーにおける学習の実際

(1) 本時の意図(第1次による)

1枚の絵を通じて、自分と向き合う経験をさせること。そして友達と意見交流する場を設定することで個々人の見方、感じ方を膨らませることができると考えた。そのためには、子どもの興味・関心の持てる、しかも多角的に捉えられる絵の選定が必要だと考えた。絵を見て生じる心の動きを自分なりに温め、暖かな雰囲気の中で表現してみるなどが絵を見る楽しさの持続につながると考えている。そのためには、絵の選定と感想を問いに変え、友達どうしをつなげる指導者側の対応にかかっていると考えてみた。

(2) 本時のねらいと評価の観点

◇絵から想像することを楽しみ、友達の感想からも絵を見る楽しさを広げることができる。

鑑賞の能力	絵の楽しさを感じ取ろうとしているか。
関心・意欲・態度	友達の意見に耳を傾けながら、自分の考えを確かめ、広げ、深めようとしているか。
発想・構想の能力	絵を見ることを生かし、自分なりのアイデアを持とうとしているか。
創造的な技能	想像を膨らませ、画家になったつもりで表現しようとしているか。

(3) 準備

指導者：絵「『船乗り』からたたかひの場面」複写版、イーゼル、画用紙、マジック、試し紙、ノートなど、子ども：絵の具、筆記具、フェルトペン

(4) 学習の流れ

学習活動	指導者の働きかけ	みとりの視点
<p>(本時の活動)</p> <p>1 本時で紹介する絵を見る。</p> <p>(1) 自由な角度から、気持ちを言葉で表現する。</p> <p>(2) 題名について考える。</p> <p>(3) クレーさんを知る。</p>	<p>1 本時のめあてを確認する言葉かけをする。</p> <p>◎一枚の絵をから、たくさんの気持ちが共有できるような学習を進めようと促す。</p> <p>(1) 静かに見る時間を保障し、問いかけながら、考える場づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づきや考えたことなど、2・3の気持ちが、心の中にうまれるよう促す。 ・一人の発言をもとに、関連する気持ちをつなげるようはたらきかける。 <p style="text-align: right;">→発言を問いへ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え合いたい箇所で、発言のない場合、指導者が問うてみる。色、形、絵の中の場所、聞こえる音、絵のお話など。 <p>(2) 題名を当てる活動を取り入れることで、表現をよく見ようとする視点をもつ。</p> <p>(3) 親しみを持つために、スライドで作品を紹介しながら、略年譜や絵をもとにした詩に触れる。</p>	<p>○子供達一人ひとりがどのような見方や感じ方をしているか。</p> <p>○友達の発言に関心をよせ、自分の感じ方と比べながら、見ようとしているか。</p> <p>○作者が絵を通じて表したかったことを考えようとしているか。</p> <p>○クレーの人となり、作品に興味をもっているか。</p>
<p>2 クレー画伯になって絵で表そう。</p> <p>3 複中クレー美術展をしよう。</p>	<p>2 画家(クレー)になったつもりで、もう1匹の怪物?やその周りの色を工夫することを伝える。また、画家が線をととても大切にしていることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞を助けるための表現として、短時間で気軽な小さな画用紙(いろいろな形から選択)を活用する。 <p>3 どのくらいクレーさんに近づけたか、お互いの鑑賞活動を取り入れる。</p> <p>【ワークシートの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレーさんに見てほしいところ ・友達から一言→にしているところ、アドバイス、自分なりに好きな所 	<p>○クレー画伯になって絵を表現しようとしているか。</p> <p>○自分とは違う友達のよさを見ようとしているか。</p> <p>○自分の活動についてどのような振り返りを行っているか。</p>

4 考察

(1) アンケート結果から

題材終了時のアンケートには、次のような結果が現れている。

◇ クレーさんの絵の鑑賞はどうでしたか。

とても楽しかった	楽しかった	どちらかというと楽しかった	楽しくなかった
3年：5人，4年：8人	3年：2人，4年：1人	0人	0人

○ わけも書いてみましょう。

3年生：魚の形がおもしろかった／魚と男の戦いがかっこいい／△□などがいろいろできておもしろい／いろんなことが考えられた

4年生：色の濃い薄いがあって楽しかった／不思議がいっぱいだったから／黒いやみの中で、水だけが青く光っている所に迫力があつた など

◇ クレーさんになって絵をかいてみてどうでしたか。

とても楽しかった	楽しかった	どちらかというと楽しかった	楽しくなかった
3年：5人，4年：6人	3年：2人，4年：2人	4年：1人	0人

○ わけも書いてみましょう。

3年生：魚に形がある絵はかいたことことがなかった／有名な人になって絵がかけて楽しかった／いろんな形が浮かんだ／いろんな絵がかけるんだなと思った

4年生：案が浮かびやすかった／色をいろいろ分けて形をつくれた／自分でかいてみてクレーさんの気持ちになれた／クレーさんの絵から友達の絵の感じ方がよく分かった／形が難しかった など

◇ あなたは、クレーさんの絵は好きですか。

大好き	好き	どちらかというと嫌い	嫌い
3年：5人，4年：6人	3年：2人，4年：3人	0人	0人

○ わけも書いてみましょう。

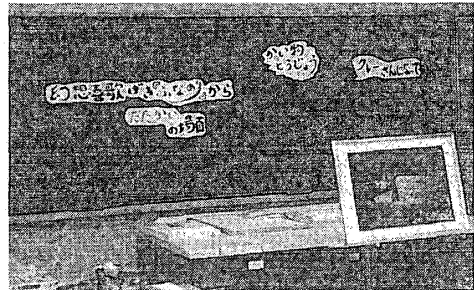
3年生：お話しがでてくる／形のおもしろさ／線のかっこよさ／大好きだから／黒っぽい色を使っている

4年生：いろんな考えが浮かぶ／絵の中から物語が生まれる／形がすごい／魚の頭のでっかいのが好き／本物がいるよう／血がでているのがこわい など

(2) 鑑賞の視点に照らして

① 子供達の想像性を引き出し、友達との意見交流が活発化するような絵といえるか。

これまでも、題材の合間に鑑賞タイムを設け、絵を見つめる学習を取り入れてきている。短い時間をできるだけ有効に活用するために、ワークシートを活用し、自由に感想を述べ合うことを主眼においてきた。このような延長線上にパウル＝クレーの絵が位置づいている。上記アンケートからも、クレーの絵を見た反応として、自分の表現とは感じの違うことが大きな魅力となっているようである。子供達はそのため、さまざまな想像を巡らして、感想をもった。

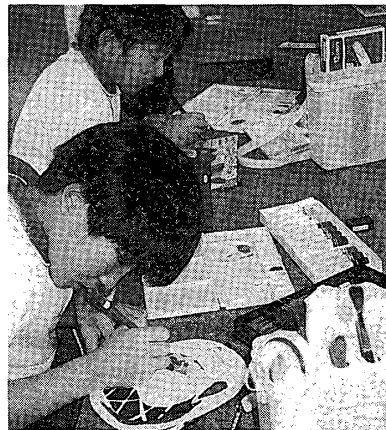


この時期の子供達には、自分の表現を実物により近づけたい思い（このことは表現のうまい・へたに結び付きやすい）が大きくなる。また、その一方で情報化社会の中で、アート系といわれる表現模倣を身につけ、知らず知らず表現の幅を自ら制限することにもつながっているように思われる。パウル＝クレーのこの絵には、写実・アート系とは質の異なる表現への親しみがああり、自由に想像できる楽しさがあつたものと考えられる。また、お互いが自由に感想を述べ合い、学び合う中で、

さらに想像する楽しさを喚起したのではないだろうか。全体の物語性、部分部分の想像的な色使い、線のもつ躍動感、具象と抽象を合わせ持つ表現の魅力など、一人ひとりが豊かな思いを抱き、それを感覚的に受け止めたり、言葉で置き換えたりすることを楽しめる懐の広い魅力があるのではないかと考えられる。

② 鑑賞のために表現活動を取り入れたことはどうであったか。

鑑賞した後に、子供達に、「次の時間に、もう一匹怪物がでてくるとしたらどんな怪物だろう。クレーさんになって絵で表現してみようかな？」と発したとき、多くの子供がすぐにやり始めたい意向を示し、残り少ない時間の中で、意欲的に取り掛かっている。子供のアンケート結果にも見られるが、この絵に登場する怪物や人物とおぼしき対象が、子供の創造性を刺激したものと考えられる。また、鑑賞のために絵で表現する活動を取り入れることにより、新たな気付きや発見が見てとれた。



◇子供の振り返るメモから 〈抜粋〉

クレーさんは、いろいろな線を使用していたので、わたしもクレーさんになって線をいっぱい使いました。そして、水の色も、白や水色やいろいろな色が出せるように気をつけました。◇いつもは、明るい色を使うんだけど、久しぶりに暗い色を使ってみました。とても難しかったです。◇あまり目をこわくすることができませんでした。こわそうにならなかった。でも、人間の気持ちも魚の気持ちもだいぶ分かった。◇かいていると、やっぱりクレーさんの絵は不思議でいっぱいだなと思いました。◇かいてて気付いたんだけど、怪物の目の周りも赤くなっている。◇クレーさんになってみると、まわりの海とか形とかがいろいろむずかしかったり、くふうもたくさんできました。

また、子供たちの様子を見ると、活動自体のおもしろさが、集中力を持続させ、粘り強い活動を引き起こしている。クレーさんになりきるといつつも、表現しながら、既に自分の怪物であり、そこには、怪物への愛着が出ている。その反面、技術的に自分の思いとの間にずれが生じ、むずかしい思いを抱いた子がおり、励ましや具体的な援助不足を感じている。

③ 友達どうしの表現を鑑賞し合う活動を取り入れたことは有効であったか。

絵を描く活動過程において、子供一人ひとりに賞賛や励まし、アドバイス、あるいは問いかけなどの言葉かけを行う中で、自分の活動に喜びや自信を見いだす働きかけが、最後の鑑賞会に向けて、重要な役割を担っている。もちろん、子供達自身は、友達の活動を気にかけて、友達のよさに少なからず影響を受けている。友達のよさに学びながらも、自分なりの活動のよさを大切にすることをここでも、一つまた一つと積み重ねていくことになる。

みんなの絵が仕上がった段階で、互いのよさを認め合う観点で「クレー美術展」と銘打ち、今一度、互いの絵を鑑賞し合う活動を取り入れてみた。使用した個々人のワークシートには、全員が必ず、一言書き入れる約束とした。

自分のワークシートに感想がもらえることは、大きな楽しみや励みにつながる。クラスの全員か

【ある子のワークシートから】

◇ あなたが、パウル＝クレーさんに見てほしいところはどこですか。

・ 2匹の魚が合体している所と2匹のおなかの模様をかえたところ。

◇ 友達から一言

〈あなたが見て、クレーさんになているなと思うところはどこですか。〉

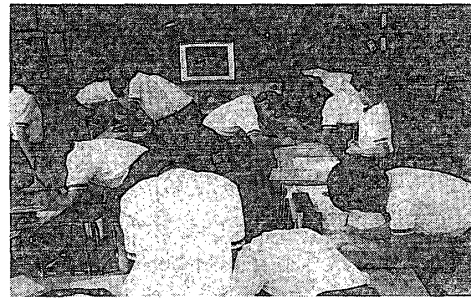
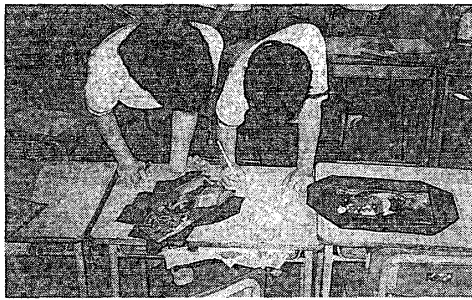
・ おなかあたりの三角形の組み合わせ・周りの海の水色＋銀の混ぜ方が、光にすかしてみると光っているみたいだ・魚の模様が魚の色とあっていて、きれい など

〈工夫すればもっとクレーさんに近づきそうということがあれば、書いてください。〉

・ 目を丸くして、目の周りを赤くして海を黒っぽくしたらいいと思う。

〈あなたじしんが好きなおところはどこですか。〉

・ なんとなくやさしそうなおところ・口の所が黄色で太いところ・目がかわいい・海を銀色にしたところ・親子でおよいでいるみたい など



ら、自分のよさ（自分では気付かなかったものは大きな意義がある）や自分へのアドバイスも率直に返してもらえることも複式の特徴である。署名入りの約束をしたため、納得のいかない内容や意味不明な文章には、互いの指摘もついて回るのである。活動それ自体は終始なごやかな雰囲気だが、自分のシートを時折のぞき込む姿は、真剣である。

このように作品展の形式をとった場合、その作品を表面的・技能的な一側面のみでとらえてしまう危険性がある。今回、友達のよさに着目するように投げかけながらも、活動内容自体は、やはり、目に見える技能面にウエイトをおく結果になっていたのではないかと、鑑賞するという意味が、ここに至って子供の表現技能の評価にすりかわっていたのではないかと、反省するところである。子供の一枚の絵に対する願いや思いを、作者とじっくり向き合い、話し合う活動を仕組む必要があったのではないだろうか。全員の絵をじっくりと鑑賞するには、時間的な制約がついてまわるが、子供どうしの表現鑑賞のかかわりをグループ単位で仕組んだり、さらに全体でも一人の絵と向き合う積み重ねの中で、絵を大切に見ようとする姿勢と絵を見る楽しさが培われていくものではなかっただろうか。複式の小人数のよさをもっと一人ひとりに目を向けた形で大切にする必要性があったと考えている。

5 おわりに

本題材は、鑑賞の視点から構成を試みた。クレーの絵を見ながらの活動は、個々の子供達にどのような新たな発見を与えたことだろうか。この絵を10年20年後に目にするとしたら、どのような心情を抱くのだろうか。

絵の見方にはきまりはなく、その楽しみ方は、さまざまに考えられる。学習から生活の中へと根をおろし、情感を豊かにゆさぶられる、そんな鑑賞指導のあり方を模索し続けたい。そのためにも、大人も子供も、一緒になって一枚の絵から喜びを分かち合える鑑賞のあり方を探っていきたいと考えている。